



歴史講座バスツアー

令和7年11月30日(日)

野中兼山にまつわる史跡等を巡りながら
郷土の歴史にふれてみませんか。

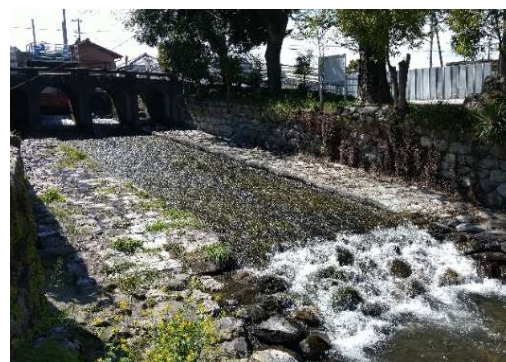


東部発着コース ～タイムテーブル～

- | | | |
|-------------|---|-------------------------------------|
| 8:50 | ● | 田野町ふれあいセンター 出発 |
| 9:10 | ● | 安芸駅 |
| 9:45 | ● | 香南市役所 |
| 10:00 | ● | 香美市役所 |
| 10:20 | ● | 南国市保健福祉センター |
| 11:30 | ● | 八田堰見学(車中)【いの町八田】 |
| 11:40~12:00 | ● | 見学・歴史講座① 新川の落とし【高知市春野町】 |
| 12:10~12:40 | ● | 資料館見学(解説あり)【春野郷土資料館】 |
| 13:00~13:40 | ● | 昼食【桂浜】 |
| 14:30~15:10 | ● | 見学・歴史講座② 山田堰【香美市】 |
| 15:10~ | ● | アンケート記入／解散
(香美市→南国市→香南市→安芸市→田野町) |



新川のおとし (高知市) *shinkawanootoshi*



弘岡井筋は農業面の灌漑用水としてだけでなく、交通路としても利用されました。かつて、奥仁淀の村々の木材や薪炭などは仁淀川を下り、仁淀川河口から太平洋に出て、浦戸湾から城下へ運ばれていましたが、八田堰と弘岡井筋建設以降、上流からの物資は井筋を通り、新川川を経て浦戸湾へと入るようになりました。ただし、井筋と新川川には高低差があったため、新川川の入口に高低差を調節するための「おとし」がつけられました。

山田堰 (香美市) *yamadazeki*



土佐山田町小田島から神母ノ木(いげのき)にかけて物部川を横断する水切り堰です。寛永16(1639)年、土佐藩家老の野中兼山は先人の遺した業績をもとに、大量の石材と木材を使って、長さ327メートル、幅11メートル、高さ約1.5メートルの堰を築きました。完成まで26年を要したといわれています。堰は下流の平野を潤し、多くの米収を得て、さらに舟入川の運輸を利用することにより、土佐藩の経済に大きく貢献しました。